



数字から読み解く！ オフィスデータ活用術

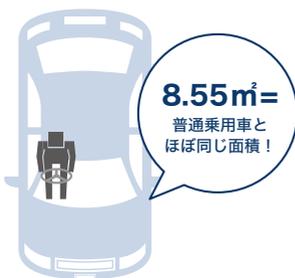
近年、「コミュニケーション活性化」や「社員のモチベーションアップ」、「人材採用」など、組織課題に取り組むために、オフィスを有効活用する企業が増えています。例えば、「コミュニケーション活性化」であれば、オフィス内にあふれる大量の書類を削減することで新たなスペースを捻出し、気軽に打ち合わせができるエリアを増やすことで社員同士のコミュニケーション回数を増やす、などです。

今回は、コクヨ(株)がこれまで蓄積してきたオフィスに関するデータをご紹介します。是非自社のオフィスと比較いただき、企業の問題発見・解決のきっかけづくりにお役立てください。

1人あたりの床面積は？

1人あたりのオフィス面積は

8.55㎡ =

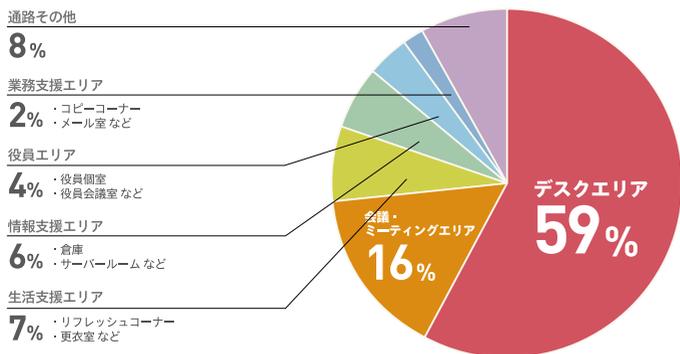


自分のデスク周りや、会議室・受付などの空間の面積を人数で割ったオフィス面積は8.55㎡で、2004年に調査を開始した際の8.49㎡から微増しました。入居ビルの形態別に見ると、テナントビルでは7.85㎡/人、自社ビルでは10.65㎡/人となり自社ビルではやや余裕のあるレイアウトとなる傾向が見られます。

※面積は有効面積から柱等の面積を除いた内法面積です。実際の賃貸借契約面積はこれより大きくなります。

オフィス全体のエリア構成比率

オフィス全体の内
デスクエリアは**59%**、ミーティングエリアは**16%**

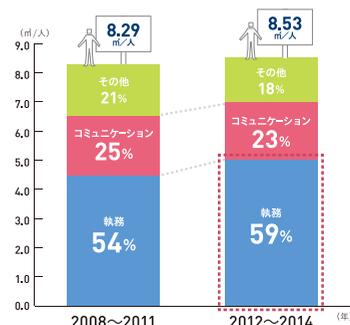


最も広い「デスクエリア」は調査を開始した2004年の63.0%と比較するとやや減少しています。次いで広いのは会議・ミーティングエリア。カフェやラウンジなどの生活支援エリアは2004年の3.9%より広がっており、コミュニケーションに関わるスペースは充実する傾向にあるようです。

最近の執務スペースは？

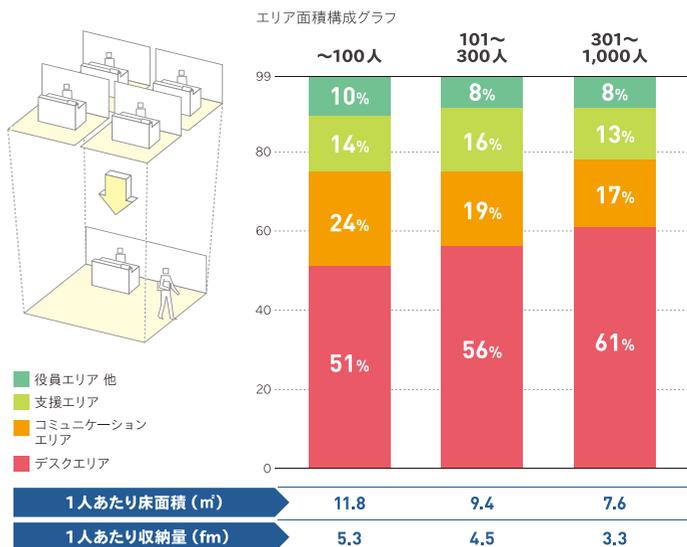
個々の席の広さだけでなく
バリエーションも

2012年以降に景気の回復が感じられるようになると、オフィス面積も1人あたり2012年～2014年平均で8.53㎡まで増加しました。いったん拡充したコミュニケーションスペースは確保したまま、個人の執務環境にも目が向けられるようになり、個々の席にゆとりを持たせるほかに、オープンな席とは別に集中のためのスペースを設けるなど執務環境にバリエーションを持たせる例や、執務席まわりのコミュニケーションを取りやすいように座席間に通路を設ける例も見られます。



オフィスをまとめるとどれくらい効率的なの？

35% もオフィス面積が減ることも。



分散しているオフィスを1カ所に集約することは、社内のコミュニケーション向上にとっても効果があります。ではファシリティとしてはどれくらい効率的なのでしょうか？小規模のオフィスでも受付や会議室などのスペースは必要ですので、全体に占めるコミュニケーションエリアの面積比率は高くなります。そのため1人あたりの床面積も広くなる傾向があります。1人あたり床面積の平均値を見ると、4カ所に分散していた各100人のオフィスを400人のオフィスに集約した場合、35%もの面積が削減されます。実際はこんなに単純ではありませんが、スペースの効率が高まることで、ロケーションの選択肢が増えたり、今までにないスペースを新設することも可能になります。

Office Renewal お客様の声

株式会社 ニューバランス ジャパン 様

移転の狙い

- バラバラだったオフィスを1ヶ所に統合したい
- コミュニケーションを加速させ、且つ集中した個人ワークができる環境にしたい
- ブランドイメージに合わせたオフィスデザインにしたい



会議室



ホワイトボードシート

不足していた会議室は7部屋から16部屋にし、社員の不満を解消。以前は最小でも6名部屋だったが、少人数でのミーティングが中心のため、4名部屋を多めに作りペースの効率化を図った。ホワイトボードの置き場に困らないよう、壁面にはホワイトボードシートを施工。



会議室予約システムを導入。PCでも直接タッチパネルからでも予約・変更が可能。

コミュニケーションスペース — スタジアム —



説明会やイベントなど社員が集まるエリア。観客席とトラックをイメージしたデザインに。オープンスペースなので通りがかった人が気軽に参加できる。

移転プロジェクトメンバーで制作した、スニーカーのインソールを使ったオブジェ。開業当初、ニワトリの足の爪にヒントを得てインソールを開発したことから、ニワトリが象徴的な存在となっている。



取材にご協力いただいた松平様(左)、石川様(右)

エントランス

ボストン本社からセキュリティ面での指示があり、エレベーターを出てすぐに入退管理を設置。エレベーターホール自体にもブランドイメージに合わせたデザインを施した。



斜めにずらしながら配置されたデスクレイアウトはメイン通路がないことで、偶発的なコミュニケーションが生まれる。

執務エリア



集中作業に適したローパーテーションで囲われている個人席。

以前は部署ごとにフロアや社屋が分かれており、コミュニケーション不足等さまざまな課題があったため、ワンフロアに収まるビルへ移転。ニューバランス ボストン本社やUK支社のオフィスを参考にしたり、コクヨのライブオフィス等を見学した結果、従来の島型レイアウトから一転、動きのある空間へ。

机の並び方が複雑なため座席表をつくりきれずいたところ、「誰がどこに座っているのかを歩いて探すようになり、声を掛け合うことで新たなコミュニケーションが生まれる」という思わぬ効果がありました。

個人席はL字に囲われているので自分の部屋のようにアレンジしています。リラックスして快適に業務ができます。

スポーツブランドらしい躍動感あるオフィス空間とニューバランスのイメージカラーをオフィス環境に同調させることができました。

お客様情報

株式会社 ニューバランス ジャパン

所在地 | 東京都千代田区神田神保町1丁目105番地 神保町三井ビルディング

設立年 | 1988年

従業員数 | 200名

事業内容 | 運動靴、靴、アパレル商品の企画・製造・販売

